



緑の地球新聞

第152号

2021年4月5日発行：公益財団法人 緑の地球防衛基金

いま名もない砂漠がふえている 私たちは次の世代へ緑の地球を贈ろう

〒104-0033 東京都中央区新川2-6-16 馬事畜産会館203
☎ 03 (3297) 5505 Fax 03 (3297) 5507
URL: <https://green-earth-japan.net/>
e-mail: defense@green.email.ne.jp
郵便振替口座 00110-9-161182 定価 ¥150



中国陝西省の地図
陝西省は中国大陸の中央に位置します。
榆林市はこの陝西省最北部の行政区です。

陝西省は、中国のほぼ中央に位置し、省都は西安（かつて中国の政治・経済文化の中心であった長安の都）です。榆林現場のある榆林市は、陝

1. 中国東陽山緑化事業の実施場所

榆林場所は、中国陝西省榆林市横山県東陽山の25ヘクタールの地です。

当基金が、2012年11月に中国陝西省榆林市横山県人民政府と覚書を締結し、翌2013年から2020年まで8年間実施してきた「中国東陽山緑化事業」は、順調に進捗し、覚書を上回る樟子松6,484本、クルミ4,455本、合計1万939本の植林を終え、事業を完了しました。本稿では、8年間にわたって取り組まれた本件緑化事業を振り返ることとします。

中国東陽山緑化事業 2013年から8年間取り組まれた、 25ヘクタール1万939本の植林事業が完了



覚書の署名（2012年）
調印後に握手する大石正光理事長と劉維平榆林市横山県長。

西省の最北部に位置し、西安から飛行機で約1時間かかる遠隔地です。榆林市は、名前のとおり、もともとは榆林のある風光明媚な地だったのでしたが、砂漠化が進み、覚書締結当時、中国の「防砂治沙」の重点都市に指定されていました。植林場所の気候条件は厳しく、夏の最高気温38度、冬の最低気温マイナス20度、年間降雨量は約350ミリ



2014年春。半砂漠地の厳しい環境の中での樟子松の植林風景。

（造林に関する覚書）
当基金と榆林市横山県人民政府との間で締結された覚書において、
①事業実施期間は2013年（

リットルの半砂漠地で、静かに歩いても煙のような小さな砂の粒子が舞い立つ地でした。
（省は日本の都道府県にあたる地方行政区画の単位です。）

2. これまでの事業の進捗経過

①2012年11月13日 中国陝西省榆林市横山県人民政府と覚書締結
②2013年～2017年 16ヘクタールの地に樟子松6,484本を植林（この間の補植786本を含めると合計7,270本を植林）
③2018年～2020年 9ヘクタールの地にクルミ4,455本を植林（この間の補植750本を含めると合計5,205本を植林）



2021年1月現在の樟子松の風景。樹高1.8～3.0メートル、樹冠の幅0.8～1.8メートルに達しています。

2020年の8年間とすること、②造林の樹種は樟子松に加えて経済価値のある樹種の造林を検討することとし、25ヘクタールに1万4000本の造林を行うこと、③当基金は、造林に要する経費として80万円(約1,000万円)の範囲内で支援すること、④横山県人民政府林業局は、造林計画の実施、施工の監督・管理・検査・検収・費用の支払いを担当することなどが定められました。

(樟子松6, 484本の植林)

「樟子松」は「蒙古アカマツ」とも言われ、乾燥に強く榆林市の砂漠区造林における重要な樹種です。2013年から2017年の5年間に6,484本(補植を含めると7,270本)が植えられました。1ヘクタール当たりの植林木数は約400本で、現在、樹高約1.8～3.0メートル、樹冠の幅約0.8



2021年1月現在のクルミの状況。樹高1.2メートル、樹幅約2.5センチメートルに達しています。



クルミの植林地の風景。半砂漠地の寒々とした大地が続いています。

1.8メートルに達し、防護林として順調に成長しています。

(クルミ4, 455本の植林)

「クルミ」は、耐寒性、耐旱性に優れた特長を有しており、また、果実の市場価格も高く、榆林市が近年普及に注力している経済樹林です。前述の覚書においても「経済価値のある樹種の造林を検討すること」とされ、2018年から2020年の3年間に4,455本(補植を含めると5,205本)が植えられました。現在では、樹高約

1.2メートルに達しています。

なお、2020年には最初の収穫期を迎える予定でしたが、2020年は何十年振りの干害に見舞われ、春の寒さも重なり、クルミの収穫は一部にとどまったようです。しかしクルミの市場価格は高く、今後は現地に経済収益をもたらす、住民の生活水準を高めると期待されています。

「地球にやさしいカード」 2021年度の活動予定

SMBCFファイナンスサービス株式会社の「地球にやさしいカード」寄付金による2021年度助成団体の活動を紹介します。

この制度は、「地球にやさしいカード」会員によるカードショッピング額の0.5%に相当する金額が、SMBCFファイナンスサービス(株)から緑の地球防衛基金に寄付され、当基金を通じて国内外で環境保全活動を行っているNPOなどの各助成団体に配分されるものです。ちなみに2020年度の助成金は1,117万円となりました。

(地球温暖化を抑えるカード) NPO法人FoE Japan

日々気候変動の影響が深刻になっていくこと、若者が気候変動対策を求めて活動していることなどから、国内でも気候変動に対する関心

3. 本件植林事業の評価、今後の対応

現地政府と住民からは、本件植林事業に高い評価が寄せられています。日中が協力して造成した林が、今後長きにわたって、安定した防風防砂効果と経済効果をもたらすよう見守っていく所存です。

助成団体の

がさらに高くなっています。オンラインセミナーの開催や昨年作成したアクションプランレットなどを活用し、クライメート・ジャスティス(気候正義)の概念を広め、国内でのさらなる気候変動アクションを訴えていきます。市民レベルの取り組みを広げ、政策提言、事業者や自治体への働きかけを行なっていきます。

(熱帯林を守り育てるカード) NPO法人熱帯森林保護団体

2019年のアマゾン熱帯林破壊面積は、九州に匹敵する555万km²、2020年は北海道に匹敵する836万km²。地球の酸素供給源である森の減少は深刻な問題です。

インディオ消防団の消防士たちは大火になる前に消火し、自然発火等の監視も行っています。コロナ禍でも、命がけで防火消火活動に取り

組み、消防士も30名増加し、機材保管場も団員たちで建設しました。5年目を迎える消防団事業は、インディオが主体性を持ち、森を火から守る先駆的且つ、緊急な事業です。

**(尾瀬の自然を守るカード)
NPO法人尾瀬自然保護ネットワーク**

尾瀬の核心地は尾瀬ヶ原と尾瀬沼です。尾瀬はすべてが特別地域であり文化財保護法の特別天然記念物に指定され、生物多様性に富んだ自然公園です。一方、尾瀬は温暖化、シカ食害の影響に加え、外来植物、尾瀬沼水質悪化など難問山積です。

活動はバス添乗解説はじめ、自然保護活動の後継者育成を目指す「尾瀬インタープリター養成講座」も引き続き開講。調査は特別保護地区の外来植物、至仏山山稜の笠ヶ岳高山植物や尾瀬の野鳥なども行います。

**(立山連峰の自然を守るカード)
NPO法人立山自然保護ネットワーク**

今年度も引き続きアースデイとやまなどで自然保護に関する啓発活動を行います。県内各地で四季を通して自然観察会を実施し、14年目となる呉羽丘陵でのモニタリングサイト1000里地調査も継続します。

外来植物除去作業については、亜高山帯などで種子の散布源となっている地点で「三密」を避けてオオバコやススキなどを重点的に除去しま

す。また、会員の高齢化が進んでいるので、大学生との協働事業を増やし活動の活性化を進める予定です。

**(白保のサンゴを守るカード)
NPO法人 夏花**

夏花(なつばな)は今年度も引き続き、サンゴ礁保全活動として畑から流れ出る赤土等を食い止めるグリーンベルト植栽活動、白保海域の赤土堆積量調査、環境学習を中心とした啓発活動を実施します。

例年は島外から参加のボランティアの方を中心に植栽活動を行っていましたが、感染防止の為に今年度は地元の小中学校と連携して活動を継続します。また新たな活動として、サンゴ礁調査を行う予定です。

**(ヒマラヤの自然を守るカード)
認定NPO法人ヒマラヤ保全協会**

ヒマラヤ保全協会は、ネパールの遠隔山岳農村部で植林・果樹栽培のアグロフォレストリーを通じた環境保全活動を行っています。

2021年度は、これまでのネパール西部ダウラギリ県での植林活動と、農山村での果樹栽培(キウイなど)、農業指導を継続します。本次計画では、地域の女性たちによる現地の植物ヒマライラクサの繊維を用いた布マスクの生産、農林産資源を用いたオーガニック石鹸の開発、養蜂活動の再開などに注力し、

もとの日常の再構築を後押しする活動を推進します。

**(ウミガメを守るカード)
NPO法人サンクチュアリーエヌピーオー**

遠州灘海岸は、貴重なアカウミガメの繁殖地です。保護活動は、35年目に入ります。今年度の活動として、出来るだけ早く海岸のプラスチックを回収することでマイクロプラスチックゼロを目指し、海洋汚染を抑制します。これが、アカウミガメの誤食を防ぎます。麻袋を利用した砂浜回復事業により、少なくなった産卵地を守ります。繁殖調査活動により、貴重な野生生物を守ります。活動を一般公開することで、市民への啓発活動を進め、次世代の担い手の育成にも力を注ぎます。

**(トンボの保護区を守るカード)
NPO法人桶ヶ谷沼を考える会**

日本一のトンボ生息地「桶ヶ谷沼」の環境を守る、特に絶滅危惧種ベッコウトンボの種の保存と保護に力を注いでいます。長い年月を掛けて活動していますが、本年度の調査では23頭にとどまり、種の保全の危機的状況にあります。このため、新たにベッコウトンボの生息環境づくりの作業活動を始めました。

30余年続く活動が71種目の新生息種ハネビロトンボの発見に繋がりました。また、各方面から注目され

るベッコウトンボの保全増殖活動を若手に繋げるよう頑張ります。

**(ゾウを守るカード)
認定NPO法人トラ・ゾウ保護基金**

象牙目的のアフリカゾウの密猟が止まりません。

世界では、ワシントン条約の勧告に従って国内象牙市場の閉鎖が進んでいます。日本はこれを拒絶したままです。幸い東京都が独自の規制を検討し始めました。日本の象牙市場を維持するための政策が引き起こしている国内取引管理の問題点と違法な象牙取引について市場調査報告書を作成し、国に先立って東京都内の象牙販売を禁止するよう都に提言していきます。

**(トンボの保護区を守る)
上総自然学校**

上総自然学校は、房総半島の中央部に位置する千葉県袖ヶ浦市で里山の保全・育成・改良に取り組んでいます。

15年程前から、耕作放棄の水田を田んぼに戻し、その周りの森林や水路も整備することで、色々な生き物を増やしてきました。その田んぼで田植えや観察会などのイベントを行っています。新型コロナウイルスの影響で、イベント中止などもありましたが、サシバのひなが3羽巣立ち、一昨年の台風による倒木の処理も

進んでいます。

**(地球温暖化を抑えるカード)
虹別コロカマイの会**

北海道各地に生息していた国指定天然記念物のシマフクロウは、開発等により一部の地域にのみ生息し、現在165羽程度といわれています。当会はシマフクロウが生存しやすい環境をつくるため、1984年から「シマフクロウの森づくり百年事業植樹祭」を実施しています。今年には密を避けるため5月に数回に分けて第28回植樹祭を実施する予定で、通年の「バイカモ保全活動」も計画しています。

昨年は当会の巣箱から4羽のシマフクロウが誕生しました。

**(地球温暖化を抑えるカード)
NPO法人熱帯林行動ネットワーク**

2021年度も、インドネシアのボルネオ東部で、絶滅の危機に瀕しているオランウータンの保護団体COPと共同で植樹活動を実施します。活動対象地域では、将来的にオランウータンを野生復帰させることを計画していますが、森林火災により荒廃してしまいました。周辺コミュニティとも連携しつつ、植樹活動を通じて経済的な恩恵を生み出すこととなる地域を、長期的に保全していく予定です。

**(地球温暖化を抑えるカード)
真庭遺産研究会**

オオサンショウウオは、国の特別天然記念物に指定された世界最大級の両生類です。岡山県真庭市北部は3万2,823haに及ぶ面積で生息地指定を受けている全国屈指の地です。

真庭遺産研究会では、オオサンショウウオの保護活動として、生息個体群の調査や人工巣穴・遡上路の設置などの川づくりとあわせて、生息地となる水域のワイズユースを進めており、美しい清流の景色が広がる下和川「長とろ」を活動拠点とした自然体験型環境学習プログラムを実施しています。

**(地球温暖化を抑えるカード)
NPO法人NPOクワガタ探検隊**

NPOクワガタ探検隊は、日本古来からの自然観《共生・畏敬・感謝》に基づき、自然とのふれあい原体験を通して『未来の森の守り人』を育成する活動を、27年間持続してきました。

具体的な活動として、大阪北摂地区の箕面国定公園を舞台に、「カブト・クワガタの里親飼育放虫活動」や「創作絵本の読み聞かせ活動」を展開するとともに、四季折々の「桜まつり・モミジ祭り」などに出席し、啓発活動を実施しています。

**たくさんのお使用済み切手など
ありがとうございました**

使用済み切手等売上表 (12月12日～3月15日)	
未使用テレホンカード	25,000円
未使用／使用済み切手	336,807円
未使用／書き損じハガキ	28,728円
外国コイン&紙幣	0円
合計	390,535円

使用済み切手等協力者

(12月12日～3月15日敬称略)

市川浩一、市川岳志、大元久美子、大藪、緒方愛宏、勝谷知子、加藤聖治、北島和男、葛原健志、孝田荘屋、曾根久子、中野寿人、三浦一正、望月、山口文子、山口元子、山崎直子、匿名

同法人・団体協力者

(12月12日～3月15日敬称略)

(社)生駒市社会福祉協議会、(株)エヌエーシー、(株)エム・シー・スクエア、(有)大串、大西金属(株)、柏市国際交流協会、木島法律事務所、(二財)九州環境管理協会、(株)京三製作所、共和食品(株)、キヨタ(株)、近畿容器(株)、(社)鉦路市社会福祉協議会阿寒支所、(株)グリーンハウスフーズ、(株)小寺工業、さきがけ税理士法人、三光ライオンズクラブ、三洋テクノマリン(株)、三

洋電機ボランティア推進委員会、(株)JM九州FC会、清水建設(株)、清水建設(株)東北支店、(株)シンク・ラボラトリー、新光電気工業(株)、積水ハウス不動産中部(株)、積和建設東北(株)、(社)泉南市社会福祉協議会、損害保険ジャパン(株)、損害保険ジャパン(株)、岐阜支店、(株)大気社東北支店、(社)高浜町社会福祉協議会、宝塚FAN、S文通サークルRenka、(株)ツーン、東京電線工業(株)那須工場、戸田建設(株)、中津沖代ライオンズクラブ、日発販売(株)、ニッパツ・メック(株)、日本郵便(株)市川大洲郵便局、ハンドメイドLuxe、(株)藤井合金製作所、ホープ歯科クリニック、(社)箕面市社会福祉協議会、宮城県高等学校・障害児学校教職員組合、(株)ミライトテックノロジーズ緑の会、(株)ロムテック、和興フィルトテクノロジ(株)

新入個人会員

(12月12日～3月15日敬称略)

西義史

新入法人会員

(12月12日～3月15日敬称略)

小豆島ヘルシーランド(株)

寄付協力者

(12月12日～3月15日敬称略)

SMBCFファイナンスサービス(株)、榎本邦彦、大熊泰江、ジャパン・カインドネス協会、(株)乗馬クラブクレイン、飛松玲子、幅田博樹、東くみ子、森口修、山本和広